View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

人間発達学研究　第1号
73-76　2010年3月

■海外研究

幼児期における母親，家族，集団保育の役割
――2010年1月7日愛知県立大学におけるプレゼンテーション要約――

Mona BEKKHUS（オスロ大学大学院生）
神田　直子訳

本研究の背景

Clarke-Stewart & Dunn, 2006；Cummings & Davies, 1994などの研究で明らかにされたように，抑うつ的な母親の子どもは，行動的な難しさをもつ恐れがある。多くの研究が母親の不安や抑うつが，子どもの養育能力を損なうため，子どもの行動的な難しさを増大させるということを示している（Fergusson, Horwood, & Lynskey, 1992；Johnson, Cohen, KasenSmailes, & Brokk, 2001；Pedersen & Revenson, 2005）。非常に幼い乳児でさえも，母親の感情に敏感である（Tronick，1989）し，抑うつ状態の母親とやりとりをする時には混乱した行動を示す（Fiels, 1995；Field, Healy, Goldstein, & Gutherts, 1990）。これらの研究によって，母親の精神状態は，子どもが生まれた後，子どもに伝わっていき，子どものすこやかな適応に対して影響を与えるということが分かる。

現代社会においては，「母親と子どもとの関係は，他の人との関係とは質的に異なる」という考え方が広くいきわたっている（Bowlby，1951）。また，それによると，母親による養育が剥奪されると，精神的衛生上の問題が起きる恐れがあると信じられている。Bowlby以来，「母親以外による養育」によって引き起こされるかもしれない問題に関しての，膨大な数の研究が行われてきた（Melhuish, 2003）。そして1980年代には，Belskyが「母親以外の養育を早期に長期に受けることは，子どもの攻撃行動を増大させる（Belsky，1988）」と発表したことを契機に，大きな論争が起きた。Belskyの出した結果は20年後にも同様であったとされている（Belsky，2001）。

ノルウェーの母子コーホート研究（MoBa）

このような研究上の背景に対して，今回のプレゼンテーションの目的は，集団保育や託児のような「母親以外による養育」が，問題を起こす恐れがあるかどうか，またそれを予防する要因が家族の中にあるか，潜在的なサポートシステムがあるかどうかについて検討することである。使用したデータは，MoBa（ノルウェー母子コーホート研究）という，ノルウェーの非常に多くの母子が参加している調査からのものである。この国家規模での妊娠期からのコーホート研究の目的は，母子の健康を損なうような原因を調べることである。この研究では，様々な専門分野の研究者からなる100以上のプロジェクトが立ちあげられている。

研究に参加してくれる母親を選ぶ際には，妊娠17週目の超音波検査を受けたすべての妊婦を対象とした。彼女たちに，定期的な超音波検査の同意書とともに，MoBa研究参加へのお誘いと，同意書類を渡した。最初のアセスメントへの参加率は42.7%（Magnus et al., 2006）であった。一般的な母親の特徴と比べ，MoBa参加者は，いくつかの変数で異なっていた（たとえば25歳以下の母親の比率が少ない）が，関連する尺度（たとえば喫煙と低体重出生児）については全体的な傾向との違いは見られなかった（Nilsen et al.，2009）。妊娠17週，30週，子どもが8カ月，18カ月，36カ月の時点で，MoBaに参加した母親たちは，郵送された質問紙に回答した。回答率は，それぞれ95.3%，92.7%，91.5%，74.4%，61.4%であった。さらに，本研究では，ノルウェーの全出産データ情報があるMBRN（ノルウェー

医学的出生登録）からのデータも使用している。なお，この研究は，地域の医学研究倫理審査委員会とノルウェーデータ検閲官の許可を得ている。

第１部；母親と家族の役割

不和な家庭で育つ子どもたちは，行動的な難しさをもつ恐れがある。しかし，ほとんどの研究は，子どもの成育環境のうち，出生後の時点にのみ焦点をあてている。したがって，心理社会的な危険因子が出生前の胎児の発達にとって妊娠中のリスクとなるのかどうかということについては，明らかになっていない。人間やラット，霊長類などを対象とした研究によると，妊娠中の母親のストレスはその子どもの行動や情動上の問題傾向を高めるという（たとえば，Talge et al.，2007 参照）。母親のストレスが子どもの問題へと伝わっていく経路は，視床下部―下垂体―副腎皮質系（HPA）であり（たとえば，Schneider & Moore，2000 参照），母親が，まわりの環境からストレスを受けると，ステロイド，コルチゾール（glucorcorticoids）が産出されるようである。

本研究の目的は，第一には，ふたつのリスク因子（母親の不安 / 抑うつと，家庭不和）が，妊娠中から出生後に渡って，どのように作用しあっていくのかということ，第二には，妊娠中の母親の不安 / 抑うつおよび家庭不和が，出生後の子どもの情動的攻撃的行動に影響を与えるかどうかということを調べることである。structural equation modeling を使ったところ，結果は次のようであった。母親の不安 / 抑うつは妊娠期から出産後 18 カ月まで持続しているが，家族の機能不全が母親の不安 / 抑うつに結びつくということは見出されなかった。第二には，母親の不安 / 抑うつに関しても，また家庭不和に関しても出産後の影響は妊娠期の影響よりも強かった。母親の不安 / 抑うつの全体的な liability によって，さらに子どもの行動に影響があるということが見出された。このように，この効果は，子どもの情動的な難しさや身体的攻撃性に影響を与えるようである（Bekkhus，Rutter，Barker and Borge，投稿中）。

第２部　母親以外による保育の役割

アメリカ合衆国の国立小児保健・人間発達研究所によって始められた大規模な研究（NICHD 幼児保育研究ネットワーク）では，次のようなことが明らかになっている。「保育の質に関わらず，毎日長時間，母親以外による養育を受けることは，externalizing behavior（反抗的な態度や攻撃的行動など）を増大させる（NICHD，2005）」。しかし，母親以外による養育の発達的な影響のありようは，「社会的選択」（訳者注；収入など社会的要因が子どもを保育園に行かせるかどうかの選択に関わっていること）と関連しているかもしれない。カナダの児童青年期の大規模な縦断調査をもとにした２つの研究によると，家庭環境が悪い子どもたちにとって，母親以外による養育は，身体的攻撃性や「情動的な難しさ」を和らげる効果がある（Borge et al., 2004；Cote，Borge, Geoffroy, Rutter, & Tremblay, 2008）。

ノルウェーの社会福祉のシステムは，ヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国とは異なり，女性は産後９カ月までは 100％の給与補償，12 カ月までは 80％の給与補償の産休を取ることができる（OECD，2006）。本研究の目的は，18 カ月時点で母親以外の養育の潜在的選択効果を調べることと，母親以外による保育の，子どもの情動的攻撃的行動への影響を調べることであった。

その結果，母親以外の保育を選択することと強く関連する要因が見出された。もっとも強く母親以外の養育と関連しているのは，学歴が高いこと（３年以上の短大，４年以上の大学卒）であった（学歴が高い方が，母親以外の養育を選択する）。また，子どもがひとりっ子か，きょうだい１人という場合も，きょうだいが２人以上いる場合に比べより母親以外の養育を受けていた。「中程度から高収入」の家族は 18 カ月以降，母親以外の養育を受ける傾向があった。このような研究参加者の諸属性を統制した上で，母親以外の養育が 18 カ月，36 カ月時点での身体的攻撃性や情動的難しさに影響を与えるかどうか調べてみたところ，影響はみられなかった。

References :

Belsky, J. (1988). The "effects" of infant day care reconsidered. *Early Childhood Research Quarterly*, *3*, 235-272.

Belsky, J. (2001). Emanuel Miller Lecture : Developmental risks (still) associated with early child care. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, *42*, 845-859.

Bekkhus, M., Rutter, M., Barker, E. D., Borge, A. I. H., (submitted). The postulated role of prenatal timing of family risk factors on physical aggression and emotional difficulties at 36 months. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*.

Borge, A. I. H., Rutter, M., Cote, S., Tremblay, R. E. (2004). Early childcare and physical aggression : Differenciating social selection and social causation. *Journal of Child psychology and psychiatry*, *44 (1)*, 155-168.

Bowlby, J. (1951). *Maternal care and mental health. Genova* : World Health Organization.

Clarke-Stewart, A., & Dunn, J. (Ed.). (2006). *Family counts. Effects on child and adolescent development*. Cambridge : Cambridge University Press.

Cote, S., Borge, A. I. H., Geoffroy, M.-C., Rutter, M., & Tremblay, R. E. (2008). Nonmaternal care in infancy and emotional/behavioral difficulties at 4 years old : Moderation by family risk characteristics. *Developmental Psychology*, *44*, 155-168.

Cummings, M. E., & Davies, P. T. (1994). Maternal depression and child development. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, *35*, 73-112.

Fergusson, D. M., Horwood, L. J., & Lynskey, M. T. (1992). Family change, parental discord and early offending. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, *33*, 1059-1075.

Field, T. (1995). Infants of depressed mothers. *Infant Behavior & Development*, *18*, 1-13

Field, T., Healy, B., Goldstein, S., & Guthertz, M. (1990). Behaviour-state matching and synchrony in mother-infant interactions of nondepressed versus depressed dyads. *Developmental Psychology*, *26*, 7-14.

Johnson, J. G., Cohen, P., Kasen, S., Smailes, E., & Brook, J. S. (2001). Association of maladaptive parental behavior with psychiatric disorder among parents and their offspring. *Archives of General Psychiatry*, *58*, 453-460.

Magnus, O., Irgens, L. M., Haug, K., Nystad, W., Skjarven, R., Stoltenberg, C., & The MoBa Study Group. (2006). Cohort Profile : The Norwegian Mother and Child Cohort Study. *International Journal of Epidemiology*, *35*, 1146-1150.

Melhuish, E. C. (2003). *A literature review of the impact of early years provition on young children, with emphasis given to children from disadvantaged background*. London : National Audit Office.

NICHD, (2005) Early Child Care Research Network N, editor. *Child Care and Child Development*. New York : The Guildford Press.

Nilsen, M. R., Vollset, S. E., Gjessing, H. K., Skjarven, R., Melve, K. K., Schreuder, P., Alsaker, E. R., Haug, K., Daltveit, A. K., & Magnus, P. (2009). Self-selection and bias in a large prospective pregnancy cohort in Norway. *Paediatric and Perinatal Epidemiology*, *23*, 597-608.

OECD, (2006). Starting strong II, early childhood education and care. Paris : Organisation for Economic Cooperation and Development, OECD : 11-214.

Pedersen, S., & Revenson, T. A. (2005). Parental illness, family functioning, and adolescent well-being : A family ecology framework to guide research. *Journal of Family Psychology*, *19*, 404-419.

Schneider, M. L., Moore, C. F., & Roberts, A. D. (2001). Prenatal stress alters early neurobehaviour, stress reactivity and learning in non-human primates : A brief review. *Stress*, *4*, 183-193.

Talge, N. M., Neal, C., & Glover, V. (2007). Antenatal maternal stress and long-term effects on child neurodevelopment : How and why *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, *48*, 245-261.

Tronick, E. K. (1989). Emotions and emotional communication in infants. *American Psychologist*, *44*, 112-119.

訳者注

MoBa（ノルウェー母子コーホート研究）とは

1999 年から始められた，妊娠期から幼児期までの母子（父親も含む）調査。現在は国家的規模で行われている。主な目的は，母子の病気や不健康の原因（環境，遺伝的要因）を探ることである。これまで本研究に参加した母親は約 10 万人となっている。

調査項目は，妊娠・出産後の母子の健康状態，遺伝子，心理社会的要因，感染症，薬の使用，栄養，ライフスタイル，保健サービスの利用，虐待，社会経済的要因，化学的・身体的環境要因，父母の過去の健康状態，病歴，職業，など。

データの集め方は，妊婦超音波検査（妊娠 17 週頃）の約２週間前に，この研究への参加依頼を妊婦に送る。「参加は自由で，いつでも中断できること」を説明し，同意した人を対象とする。超音波検査と同時に血液と尿の試料を提供してもらう。検査時 90％の父親が付き添っているが，父親もこの調査に参加してもらえるか，本人の同意を問う。同意した人には血液試料を提供してもらい，健康，医療，職業などについての簡単な質問に答えてもらう。回答用紙と同意書がベルゲンの医学出生登録局に送られる。妊婦は妊娠 30 カ月目に３回目の質問紙を受け取る。子どもが生まれてすぐに，へその緒から血液を取り，母親からも２回目の試料を取る。出産後，６

カ月，18 カ月，６歳の時に質問紙調査が行われる。

http://www.fhi.no/eway/default.aspx?pid=238&trg=MainArea_5811&MainArea_5811=5903:0:15,4329:1:0:0:::0:0 より